

### 南魚沼産コシヒカリ 産地情報No. 3

新潟地方気象台は6月11日、新潟県を含む北陸地方が梅雨入りしたとみられると発表しました。今年の梅雨入りは平年より1日早く、昨年より4日遅いそうです。梅雨期は大雨による災害が心配される時期ですが、梅雨明け後の農業用水を蓄える重要な時期でもあります。近年は、梅雨時期の降雨が少なく高温の傾向が強いため、適度な降雨を願うばかりです。

さて、5月中旬に植えつけられた若い苗は草丈28cmくらいに生長し、葉の色も元気な深緑色になっています。「草の高さ」「茎の数」「葉の数」ともに、指標値を若干上回る数値となっており、少し早いながらも順調に生育していることが伺えます。



田植えから25日後を目安に、一旦田んぼの水を全部抜いて、土の表面を乾かす「中干し」の作業が始まります。この「中干し」が遅れてしまうと、早期に稲が倒れ込んでしまったり白いお米の原因となるため、とても重要な作業です。当JAでは、管内の全14会場で「中干し」の適切な時期や作業のポイントなど、有効な情報を伝える「中干し指導会」を実施しました。



「中干し」の効果を安定させるため、田んぼの表面に溝を掘る「溝切り」が進められています。この溝を掘ることで、フェーン現象の高温時には田んぼに注いだ水が、溝をつたって迅速に水を張ることができます。また、長雨の時には、溝が効率よく田んぼの水を排出してくれます。

溝を切る目安は幅2.5mで、深さは10cm。専用の溝切り機がありますが、重労働の作業です。



「中干し」は7月5日頃まで続けられ、その間の作業は草刈りが中心となります。田んぼを取り囲む畦に生えた雑草を丁寧に刈取り、稲の害虫となるカメムシの住み家を除去しています。この草刈りは、気温が上昇する6月下旬から始まるため、気温が高い日はとても大変な作業となります。



今後は、定期的な草刈りに加え、稲の活力維持・お米の実りを向上させるための中間追肥が実施されます。